

## 氷点下の中、湯の恵みに感謝

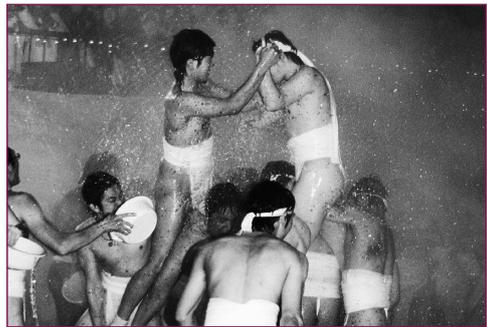
～第38回登別温泉湯まつり～

2月3日(火)と4日(水)の2日間、登別温泉とカルルス温泉で『第38回登別温泉湯まつり』（市、登別観光協会共催）が行われました。

この催しは、登別温泉の豊富な湯量とすぐれた泉質に感謝し、開運と無病息災を願うまつりとして、節分に合わせて毎年開催されています。

厄払い湯鬼神群舞では、閻魔大王の使者『湯鬼神』が、旅館やホテル、飲食店を回って観光客や市民の旅行の安全や無病息災などを願い、厄払いを行いました。突然訪れた鬼に最初は驚いた観光客も、最後は記念写真を一緒に撮り、思いがけない思い出となっていました。

4日の夜には、昨年完成した泉源公園を会場にして、『湯鬼神神楽』や6年ぶりに復活した『子宝もちつき舞い』が披露されたほか、メインイベントの『源泉湯かけ合戦』が盛大に行われ、下帯姿の若者約80人が紅白に分かれて参加。赤が勝つと温泉の温度が上がり、白が勝つと湯量が増えるといわれており、今年は赤組が勝利し、温泉の恵みに感謝していました。



▲源泉湯かけ合戦

## 不景気なんて追い払え

～鬼まつり～



▲アーニスでの福まき

1月24日(土)、鶯別・若草、幌別、登別地区の3地区で、厄払いと福を招くイベント『鬼まつり』（同実行委員会主催）が行われました。

この日は、赤鬼・青鬼に扮した地元の若手経営者や後継者、市役所・団体職員、専門高校生などによる『豆まき隊』が、幼稚園や保育所、商店街、飲食店、大型施設などを訪問し、鬼もちと開運の『元気玉』、落花生の福まきを行ったほか、地区ごとでもちつきやもちまき、ジャンケン大会などが行われました。

また、17時過ぎからはNPO法人ライフサポートによるアイスキャンドルや子ども花火大会などがらえば公園や鉄南ふれあいセンター、若草中央公園で行われ、鬼まつりに彩りを添えていました。

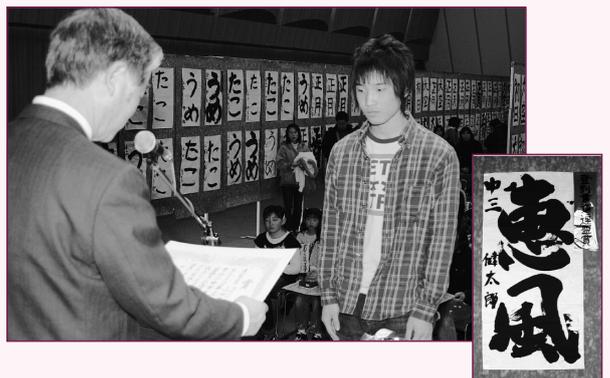
## 一筆一筆に心を込めて

～第39回小中学生書き初め展～

2月7日(土)、市民会館で『小中学生書き初め展入賞者表彰式』（文化・スポーツ振興財団、登別書道連盟主催）が行われました。

この催しは、昭和44年に登別書道連盟が発足した翌年から、書き写し能力の向上や書道の普及などを目標に開催され、現在では毎年市内の小中学校の協力により、500点を超える応募件数が寄せられています。

今年は509点の応募作品が集まり、2月6日(金)から8日(日)までの3日間、市民会館中ホールで展示されました。その中から『書き順や線質、子どもらしい元気さ』などを審査対象に、10人の審査委員で厳正に審査した結果45点が入賞。式典には、入賞した子どもや保護者ら約200人の方が参加し、入賞を祝いました。



▲昨年に続き2年連続で登別書道連盟賞を受賞した山田健太郎さん（幌別中学校）と受賞作品